

---

九州運輸局メールマガジン 平成 29 年 2 月 2 日 第 350 号

～運輸と観光で九州の元気を創ります～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日（祝・祭日の場合は翌日）にお届けしています。

次回の定期発行日は平成 29 年 2 月 16 日（木）です。

---

## ◆ 目次

### 1 現場レポート

- ・防災・減災シンポジウム「大規模災害への備えと地域の連携について考える in 宮崎」が開催～パネル展も同時開催～
- ・2月1日から中津市で公有民営方式バスが運行～地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用した公有民営方式は九州で初めて～
- ・熊本市立砂取小学校で「バリアフリー教室」を開催～心のバリアフリー社会の実現を目指して～
- ・日南市で漁業乗組員への生存対策講習会を開催～生き抜くためのサバイバルトレーニング～
- ・平成 28 年度九州地区舟艇利用対策連絡会議を開催～プレジャーボートの「利用振興」と「放置艇・不法係留船の排除」、「海難防止・安全運航」に向けて～
- ・第 10 回九州海事産業次世代人材育成推進協議会を開催～「海の日」メッセージを踏まえて～

### 2 お知らせ

- ・「地域公共交通活性化セミナー2017in福岡～地域が一体となった公共交通の活性化策～」を開催します
- ・平成 29 年度「国土交通行政インターネットモニター」募集中～あなたのご意見をお聴かせください～

### 3 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

---

## 1 現場レポート

◆防災・減災シンポジウム「大規模災害への備えと地域の連携について考える in 宮崎」が開催  
～パネル展も同時開催～

◎1月25日に宮崎市で官民約300人が参加した「防災・減災」シンポジウム〈大規模災害への備えと地域の連携について考える in 宮崎〉が開催され、情報や意識の共有を図るとともに、地域の今後の安全・安心についての取組について意見を交換しました。また、会場と同建物内ではパネル展も実施され多くの来場者がありました。

### ◇内容

・シンポジウムは、国土交通省九州地方整備局と九州防災連絡協議会（九州運輸局等の17の国の機関とNEXCO西日本やJR九州等の7つの企業が参加）が主催。

・1月25日(水)13時から17時に宮日会館11F宮日ホール(宮崎市)にて、国や県、市町村、企業関係者約300人が参加。

#### [シンポジウム]

- ・開会挨拶(小平田浩司・九州地方整備局長)
- ・来賓挨拶(河野俊嗣・宮崎県知事)
- ・基調講演「学校教育から新しい防災を考える」(国崎信江・危機管理教育研究所代表)
- ・活動事例発表「平成28年熊本地震における災害派遣活動」(黒山幸一・西部方面総監部情報部資料課収集班長3等陸佐)
- ・活動事例発表「熊本地震におけるDMAT事務局の対応」(近藤祐史・厚生労働省DMAT事務局医師)
- ・パネルディスカッション「南海トラフ巨大地震と大津波などの大規模災害にどう備えるべきか？」  
(コーディネーター:杉尾 哲・宮崎大学名誉教授)  
(パネラー:村上啓介・宮崎大学工学部教授、国崎信江・危機管理教育研究所代表、大山俊郎・宮崎日日新聞社報道部次長、初鹿野 聡・NPO法人みんなのくらしターミナル代表理事、畑山栄介・宮崎県危機管理統括監、小平 卓・九州地方整備局企画部長)
- ・閉会挨拶

#### [パネル展]

・九州防災連絡会参加の11機関等から提出のあった「熊本地震」と「これまでの活動状況等」のパネルを、シンポジウム会場に通じる宮日会館10Fに展示し、シンポジウム参加者に防災・減災の重要性を視覚的にアピール。

#### ◇九州運輸局からのメッセージ

- ・平成27年には口永良部島での火山噴火、そして昨年熊本地震、更には今後予想されている南海トラフ巨大地震・大津波と、いつ起こるかわからないのが自然災害の脅威です。
- ・九州運輸局では今後も九州防災連絡会のメンバーと連携し、今後予想される大規模災害に対する防災・減災の取組に全力を挙げていきます。

◇シンポジウムとパネル展の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_1.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_1.pdf)

---

#### ◆2月1日から中津市で公有民営方式バスが運行

～地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用した公有民営方式は九州で初めて～

◎大分県中津市では国の補助を受け小型バス3台を購入し、民間バス会社に貸与し運行させる公有民営方式の路線バスを2月1日から始めました。1月30日にはバス引渡式が開催され、保育園児らの乗車体験も行われました。

#### ◇内容

・多くのバス事業ではマイカー普及や人口減少により路線バス利用者が減少し収支が悪化。バス車両の老朽化による整備費負担も小さくない状況。

- ・中津市駅等を始発とし大分県北部を中心とした路線バス運行する大交北部バス（株）も、現在、国や大分県、中津市から補助金を受けて事業を実施。
- ・国土交通省ではバス事業者負担を軽減し公共交通を守るため、平成 26 年度に公有民営方式車両購入費国庫補助金として新たな補助制度を設置。
- ・中津市はこのたびこの制度を活用し 2250 万円の補助金を受け小型バス 3 両を購入し、大交北部バス（株）へ貸与。
- ・バスの定員は 33 人（座席数 18）、ノンステップ式や車いす用のスロープ板・固定装置も備えたバリアフリー仕様。車体には中津城や八面山からの中津市内の夜景等をラッピングし、観光客にもアピール。
- ・大交北部バス（株）は中津駅等を始発する耶馬溪線、海岸中高線、田口線で貸与を受けたバスを 2 月 1 日から運行。
- ・運行に先立ち 1 月 30 日（月）には三光福祉保健センター（中津市）にて、中津市長、九州運輸局交通政策部長やバス事業関係者等の列席のもとバス引渡式が開催され、式終了後は地元の山口保育所の園児 11 人が乗車体験。

#### ◇九州運輸局からのメッセージ

・国土交通省ではコンパクト＋ネットワークの実現にとって不可欠な地域公共交通ネットワークの再構築に向けた取り組みを支援しており、次の地域公共交通確保維持改善事業を行っています。

##### 1. 地域の特性に応じた生活交通の確保維持（地域公共交通確保維持事業）

①過疎地域等における幹線バス、デマンドタクシー等の運行

②バス車両の更新等

③離島航路・航空路の運航

##### 2. 快適で安全な公共交通の構築（地域公共交通バリア解消促進等事業）

①鉄道駅におけるホームドア・エレベーターの整備、ノンステップバスの導入等

②LRT・BRTの整備、ICカードの導入・活用等

③地域鉄道の安全性向上に資する設備の更新

##### 3. 公共交通の充実を図るための計画策定の後押し（地域公共交通調整等事業・再編推進事業）

① 地域公共交通網形成計画等又は再編実施計画等の策定に必要な経費

② 地域公共交通網形成計画又は国の認定を受けた再編実施計画に基づく事業として実施する利用促進及び事業評価に要する費用

◇バス引渡式の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_21.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_21.pdf)

#### ◆熊本市立砂取小学校で「バリアフリー教室」を開催

～心のバリアフリー社会の実現を目指して～

◎九州運輸局では（福）熊本市社会福祉協議会ボランティアセンター及び熊本バス（株）の協力のもと、1 月 20 日（金）に熊本市立砂取小学校（熊本市中央区神水）にて、4 年生 70 人を対象に「バリアフリー教室」を開催しました。

#### ◇内容

・九州運輸局では、誰もが高齢者・障害者等に対し「お手伝いしましょうか」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指し、市民の方々に高齢者・障害者等の疑似・介助体験を通してバリアフリーについての理

解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識の向上を図るため、九州各地で「バリアフリー教室」・「バリアフリー講習会」等を開催しており、今回は熊本市の小学校での開催。

[バリアフリー教室 in 砂取小]

- ・ 講和、実習「アイマスクを着用した視覚障がい者疑似体験」「車イスの介助・乗車体験」(講師：熊本市社会福祉協議会ボランティアセンター)
- ・ 説明、実習「バスのしくみ」「車いす・アイマスクを着用しての体験乗車」(講師：熊本バス株式会社)

◇九州運輸局からのメッセージ

- ・ この教室では、高齢者、障がい者の日常生活や社会生活における困難な状況を見学しながら、自らの問題として認識してもらうことに主眼を置いています。
- ・ 開催後のアンケートでは、「目の不自由な人や車イスの人の不便さを知ることができたので、これからは困っている人がいたら声をかけたり、助けたりしたいと思いました。」「低床バスは、目の不自由な人やお年寄りにとって安心できるバスだと分かりました。」などの感想が寄せられ、開催意義を確信したところです。
- ・ 今回、砂取小の子どもたちからお礼状をいただきました。思いがけない心遣いに感激すると同時に、改めて本業務に携わるやり甲斐を感じた次第です。今後もこのような取組を通して、誰にでも自然に声かけができる「心のバリアフリー」社会の実現を目指していきます。

◇バリアフリー教室の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_4.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_4.pdf)

---

◆日南市で漁船乗組員への生存対策講習会を開催  
～生き抜くためのサバイバルトレーニング～

◎船員災害防止協会及び同協会宮崎地区支部の共催、九州運輸局後援により、海難発生による死傷災害の抑制を目的とした「生存対策講習会」を1月16日(月)に日南市漁業協同組合大堂津支所にて開催しました。

◇内容

- ・ 1月16日(月)13:30～15:30、座学は日南市漁業協同組合大堂津支所会議室、実技は日南市漁業協同組合大堂津支所前岸壁及び前面海域において実施。
- ・ 受講者は鰹一本釣り漁船乗組員(内インドネシア実習生39名)及びその家族、船舶所有者、関係団体担当者等、計72人

[講習会]

1. 座学

- ・ 「生き抜くために」(講師：船員災害防止協会 安全管理士 長谷川 澄)
- ・ DVD上映「漂流から生還へ～サバイバルトレーニング～」

2. 実技

- ・ 「膨張式救命筏等の操作について」(講師：船員災害防止協会 技術講師 関根 猛)  
(指導内容)①座学講師による生き抜くための心構え等の説明②実技講師による膨張式救命筏(いかだ)の投下・展張、離脱機の操作方法や救命筏への乗込み方法等の説明③岸壁より膨張式救命筏を投下展張し、海上実技訓練要員による海中からの救命筏への乗込み及び反転した救命筏の復正方法等の訓練④救命筏艀装品(ぎそう

ひん)の使用方法等の説明⑤落下傘付信号及び信号紅炎(こうえん)等の取扱及び  
打上げ等訓練

※冬期の開催であったことから、海上での実技訓練受講者(飛び込み要員)にはイ  
マーションスーツを着用させるなど安全には万全を図って実施。

#### ◇九州運輸局からのメッセージ

・船員の労働環境をめぐるのは、近年の船員の高齢化、設備や機器の高度化、作業  
の多重化・効率化、外国人船員の増加等の変化に加え、船員不足が顕在化しつつあ  
ります。船員災害により、船員が休職・離職することは海運業及び漁業にとって人  
的資源の損失であるだけでなく、陸上労働と比較し高い労働災害発生率は、若年者  
に船員という職業を敬遠させる要因にもなり得るところです。

・これらの課題に適確に対処して船員を確保・育成していくためにも、船員災害の  
防止活動の取り組みを継続していく必要があります。とりわけ海難の発生に伴う死  
傷災害の抑制は最重点事項であり、九州運輸局では生存対策講習会等を通して船員  
災害の防止について周知を図っています。

・受講者からは、「日頃経験できない救命器具の操作を学ぶことができた。緊急時  
は慌てうまく使用できないかもと心配であったが、今回の講習会で緊急時に慌て  
ずに使用することができそう。」といった声が聞かれました。

・今後も関係機関及び関係者と連携し、船員災害抑制の取組を進めていきます。

◇サバイバルトレーニングの様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリ  
ーからご覧ください。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_5.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_5.pdf)

---

#### ◆平成 28 年度九州地区舟艇利用対策連絡会議を開催

～プレジャーボートの「利用振興」と「放置艇・不法係留船の排除」、「海難防止・  
安全運航」に向けて～

◎九州地区舟艇利用対策連絡会議(国の機関や地方自治体、海事関係団体等の 18  
機関等で構成、事務局は九州運輸局と九州地方整備局)は、1 月 24 日(火)に福岡  
合同庁舎 7 階海技試験場(福岡市博多区)にて平成 28 年度会議を開催しました。

#### ◇内容

・プレジャーボート等の舟艇利用振興対策等の問題点を明確にするとともに情報を  
共有し、健全な利用振興に資する対策を講じることを目的に開催した会議には、国  
の機関、地方自治体、舟艇関係事業者団体、利用者団体から 42 人が参加。

#### 【会議】

[主催者挨拶]九州運輸局海事振興部長(待鳥明義)

・放置艇対策を更に加速させ、実効的かつ抜本的な問題解決を図っていくことが重  
要。

#### [議題]

##### 1. 国の施策について

①プレジャーボートの利用振興施策について(国土交通省海事局船舶産業課舟艇室)

・UMI 協議会の活動、海の駅の情報発信等の取組が重要。

②港湾における放置艇対策について(九州地方整備局港湾空港部)

・放置艇隻数は減少傾向。管理者の撤去処分が進んでいる。係留保管状況・効果的  
対策事例の情報共有と、地域に応じた工夫を凝らした対策、関係者間の連携強化が

重要。

③不法係留船対策について（九州地方整備局河川部水政課）

・保管場所確保の義務化、係留・保管施設の整備、関係機関との連携強化、所有者等への啓発を引き続き実施。

2. 業界団体の取組

①プレジャーボート救助事業（BAN）の現状について（（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会）

・BANとは会員制のプレジャーボート救助事業（海のロードサービス）で、今後サービスエリアを拡大する計画。

②プレジャーボート利用振興に関する業界の取組について（（一社）日本マリン事業協会）

・全国で需要創造イベントを開催。

・九州ボートショーは熊本地震の影響により全て中止（H28年度）。

③九州地区FRP船リサイクルについて（（一社）日本マリン事業協会九州支部）

・平成29年度は利便性向上（通年での受付・引取）と周知広報の強化を図り、引き続き料金等チラシを各所で配付。

④「海の駅」活動報告（海の駅ネットワーク九州連絡会）

・九州での平成28年度新規入会は4月の「かごしま・あくね・海の駅」。6月には熊本県へ地震義援金を贈呈。

3. 地方公共団体の取組

・プレジャーボート等の振興策及び放置艇対策について（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、北九州市、福岡市、佐世保市）

4. 第七管区海上保安本部管内の海難発生状況について（第七管区海上保安本部）

・船舶海難は減少傾向、プレジャーボート海難はここ数年は横ばい又は増加。機関故障の6割超が整備不良、運航阻害の7割超が船体機器整備不良が原因。

5. 小型船舶の安全向上に向けて（九州運輸局海上安全環境部船舶安全環境課・海技資格課）

・不法係留の減少に向け、関係機関との連携によるパトロールを今後一層強化。

・また、関係法令の遵守に向け、警察、自治体、関係団体との連携も強化。

6. 意見交換

◇九州運輸局からのメッセージ

・港湾、河川、漁港等での放置艇・不法係留船は、船舶の航行障害だけでなく、東日本大震災の教訓として、津波による背後住居等への二次被害も懸念される所です。

・また、不法係留船の事故率は小型船舶全体の事故率よりも高いことから、不法係留対策が小型船舶の安全対策にも繋がっています。

・九州地区舟艇利用対策連絡会議では今後も連携を強化し、プレジャーボートを利用したレクリエーションの健全な普及・振興のため、舟艇利用振興対策の様々な課題に取り組んでいきます。

◇連絡会議の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_6.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_6.pdf)

---

◆第10回九州海事産業次世代人材育成推進協議会を開催

～「海の日」メッセージを踏まえて～

◎九州海事産業次世代人材育成推進協議会（事務局：九州運輸局）は、1月25日（水）に福岡合同庁舎7階海技試験場（福岡市博多区）で第10回協議会を開催しました。協議会では平成28年度の活動報告が行われ、平成29年度の活動計画が満場一致で承認されました。

#### ◇内容

- ・協議会には、事務局を含め海事産業関係12団体や船員教育機関8校（オブザーバーの水産系高校含む）から約30人が出席。
- ・報告及び意見交換内容等は次のとおり。

【主催者挨拶】九州運輸局次長 濱田 哲

- ・海事産業の持続的な発展のためには、「人材の確保・育成」「海事教育の推進」が必要不可欠な取組であり、地道な取組を継続していくことが極めて重要。

#### 【議題】

##### 1. 平成28年度の活動報告

- ・理解醸成、認知度向上、進路及び就職段階についての取組報告
- ・水産系高校等との連携した取組報告
- ・「海事教育副読本」等の普及促進の取組報告

##### 2. 「今後の活動方針」の改訂

##### 3. 平成29年度の活動計画

- ・海事施設見学の取組、見学会受入事業者の更なる拡充
- ・「海事教育副読本」等の整備と、小中学校での使用促進の取組
- ・若年船員の確保育成に向けた取組
- ・造船業等における人材確保に向けた取組
- ・土曜学習応援団の取組
- ・各団体が実施する出前講座等の情報収集

##### 4. 情報交換

- ・学習指導要領等改訂スケジュール
- ・海事・海洋教育に関する取組の現状

#### ◇九州運輸局からのメッセージ

・次世代の人材確保・育成の必要性から平成20年に設置された本協議会も、今回で10回目の開催となります。小・中学生や教員を対象とした海事施設見学会や出前講座そしてインターンシップなど九州管内で人材育成に寄与すべく活動を行っています。

・「2025年までに、すべての市町村で海洋教育が実践されることを目指す。」との安倍総理の「海の日」のメッセージを踏まえ、小中学校での「海事教育副読本」の整備と使用促進に向けた取組を継続します。

・新たに「造船業等の人材確保事業」を今後の活動方針及び次年度の活動計画に加え、工業系高校と連携した海事施設見学会を実施し、幅広い人材育成を推進していきます。

◇協議会の様子は九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_71.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_71.pdf)

◆ 「地域公共交通活性化セミナー2017in福岡～地域が一体となった公共交通の活性化策～」を開催します

九州運輸局では、地域公共交通やまちづくりの課題に対応する人材育成を目的に、先進的な取組等を紹介し、意識の啓発に留まらず次なるアクションの喚起を図るため、地域公共交通活性化セミナーを次により開催します。  
皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

【地域公共交通活性化セミナー2017in福岡】

日時：平成29年2月20日（月）13:30～17:10

会場：福岡合同庁舎新館7F海技試験場

対象者：自治体担当者（交通・まちづくり担当）、交通事業者、コンサル等

定員：150名（先着）

参加費：無料

[プログラム]

・13:30～開会挨拶（九州運輸局交通政策部長 福山 二也）

◇第一部「地域が一体となった公共交通の活性化策」

・13:35～事例発表 北条鉄道株式会社「北条鉄道の取組について（仮題）」

・14:15～事例発表 兵庫県明石市「Tacoバスの取組について（仮題）」

・14:55～（休憩）

◇第二部「制度説明」

・15:05～制度説明 国土交通省総合政策局交通支援課「平成29年度予算案について」、制度説明 国土交通省総合政策局交通計画課「地域公共交通網形成計画の作成、実施に当たっての留意点」

・16:45～質疑応答

・17:05～閉会挨拶（九州運輸局交通政策部交通企画課長 前川 翔）

【参加申込み要領】

・申込書に必要事項をご記入のうえ次の宛先へメール又はファクシミリにより申込みください。（申込書は次のURLからダウンロードできます。）

〈宛先〉九州運輸局 交通政策部 交通企画課 行

Mail：qst-qst-kikaku@ml.mlit.go.jp

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_8.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_8.pdf)

---

◆平成29年度「国土交通行政インターネットモニター」募集中

～あなたのご意見をお聴かせください～

国土交通省は、皆さまから広くご意見お聴きして、国土交通行政に反映させることを目的として『国土交通行政インターネットモニター』を募集しています。

多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

・募集者数：全国で1,000名程度

・募集期間：平成29年2月1日（水）～平成29年3月8日（水）

・その他：応募方法・応募資格・モニターのお仕事など詳細は、平成29年度「国土交通行政インターネットモニター」募集要領をご確認ください。↓

<http://www.mlit.go.jp/common/001169642.pdf>

---

3 九州運輸局ホームページアップ情報

--- 報道発表 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>



--- お知らせ ---

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 ---

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

////////編集部だより //

あす2月3日は節分です。全国各地の寺社でも毎年豆まきが行われているようです。福岡市博多区の櫛田神社でも、立春の前日に櫛田神社で節分厄除大祭が行われ、多くの参拝者で混雑が予想されます。既に桜門、南門、北門の3つの門にはそれぞれ顔が違う特大の”おたふく面”が飾りつけられており、3日（金）午前11時の豆撒きには、“くまモン”も登場します。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_9.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_9.pdf)

櫛田神社の境内に三桧（ミツマタ）の木がありました。日本紙幣の原料として有名なこの木は、見たままのとおり枝が必ず三叉、すなわち三つに分かれる低木で、3月から4月にかけて春の訪れを告げるように一斉に淡い黄色の花が開きます。開花を待ち遠しいと感じるきょうこの頃です。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_350\\_10.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_350_10.pdf)

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

---

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/backnumber-top.htm](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm)

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou\\_mail.html](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html)

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: [gst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp](mailto:gst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp)

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

---